和田　秀一

長野赤十字病院　消化器内科部長

厚生労働科学研究費補助金（難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業（肝炎関係研究分野））
分担研究報告書

本邦における急性ウイルス性肝炎の発生状況についての疫学的研究

研究分担者　和田秀一　長野赤十字病院

研究要旨
B型急性肝炎はGenotype Aが増加し、感染の経路が変化している。ウイルス性肝炎、特にB型急性肝炎の発生、蔓延状況、予後を明らかにするために、全国の赤十字病院への急性ウイルス性肝炎疫学調査を行い、本邦における急性ウイルス性肝炎の実態を明らかにし、universal vaccinationの妥当性についても検討した。今回平成23年、24年調査について報告する。

A. 研究目的

母子感染、輸血後肝炎の制御によりB型肝炎ウイルス（HBV）キャリアは減少したが、最近本邦ではGenotype Aの増加など感染の経路が変化しB型急性肝炎は増加している。本邦における急性ウイルス性肝炎、特にB型急性肝炎の発生とその蔓延状況、臨床経過を明らかにし、universal vaccinationの導入の必要性も検証する。

B. 研究方法

平成23年度に引き続き平成24年度も、同年12月末に全国46施設の赤十字病院あてにアンケート（Excel file）を送付し、平成24年1月から12月までの急性ウイルス性肝炎患者を対象に結果を回収し検討した。

なお、研究にあたっては個人情報の管理に十分留意し、dataは全て匿名化した。また、報告された内容は全て通常診療で必要な内容に留めた。なお、本研究の実施にあたっては各医療機関における生命倫理委員会の承認を得た。

C. 研究結果

平成23年、平成24年2年間の報告を集計した。平成24年2月1日現在で計21施設より結果を回収した。A型急性肝炎は12例、B型急性肝炎は79例、C型急性肝炎は11例、E型急性肝炎は10例の報告があった。

A型急性肝炎の劇症化はなく、特に目立った傾向はなかった。海外での感染例を3例に認めた。

B型急性肝炎は男性61例、女性15例と有意に男性例に多く、平均年齢は38.5才、最低17才最高69才であった。Genotype測定は65例に行われ、A32例、B6例、C27例で、Aが半数近くを占めた。感染経路は性行為38例、不明24例、医療行為1例であった。性行為感染では異性間の感染22例、同性間の感染13例，不明24例で、同性間では13例中11例がGenotype A、異性間では24例中8例がGenotype Aであった。慢性化はGenotype A、Cとも1例に認められた。劇症化はGenotype A、B、Cで各1例に認められ，Genotype Cの1例が死亡している。(表)

また、Genotype Aの感染は東京、大阪、名古屋、福岡、京都，神戸などの大都市で23例と多かったが、長崎、松山、長野、岐阜、姫路などでも報告があり、全国に蔓延していた。

C型急性肝炎は針刺し事故による医療者の感染

が2例、性行為による感染と思われる例が2例、劇症化例が1例認められた。

E型急性肝炎は国内感染が9例、国外感染が1例で前者では2施設から8例の報告があり、地域的な偏りが見られた。豚内臓肉、鹿生肉、イノシシ生肉、馬刺しの摂取があった。Genotypeを測定した6例ではⅢが3例、Ⅳが3例であった。

表　急性B型肝炎におけるGenotype別感染経路と臨床像

Genotype	A	B	C
症例数	32	6	27
平均年齢	38.4才	41.2才	39.9才
男性（例数）	31(96.8%)	6(100%)	19(70.3%)
感染経路（例数）			
性行為	20(64.5%)	4(66.7%)	16(59.2%)
異性間	8	3	13
同性間	11	0	2
不明	12	2	10
医療行為	0	0	1
劇症化（例数）	1	1	1
慢性化（例数）	1	0	1
抗ウイルス療法(例数)	22	1	9

D.　考察

今回平成23年および24年の急性ウイルス性肝炎を集計した。B型急性肝炎に関してはGenotype Aの感染が約半数を占め、特に同性間での性行為感染では84.6%と高率であった。慢性化の比率は高くなかったが、Genotype A、B、Cいずれも劇症化例を各1例認め、本邦でのB型肝炎ウイルス対策を考える上で重要と考えられた。また、Genotype Aの感染は都市部以外にも認められ、全国的な蔓延が示唆され、universal vaccinationの必要性が考えられた。

E.　結論

B型急性肝炎はGenotype Aの頻度が約半数を占め、同性間での性行為感染では特に頻度が高かった。Genotype Aの感染は全国に蔓延していると考えられ、公衆行政上極めて重要な問題と考えられた。

G.　研究発表

なし

H.　知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

なし

黒崎　雅之

武蔵野赤十字病院　消化器科部長

C型慢性肝炎例のSVR後からの発癌例のデータマイニング解析

黒崎雅之　武蔵野赤十字病院　消化器科部長

研究要旨：全国の日本赤十字病院から、HCVが駆除されたのちに発癌した症例を収集し、データマイニング解析により発がんリスク因子を分析した。総計778例のSVR症例（発癌92例）を収集した。累積発がん率は、1年0.9%、3年4.0%、5年7.1%、7年12.4%であった。発癌と関連する因子は、多変量Cox比例ハザード解析では、性別（HR2.5）、年齢（HR2.9）、AFP（HR3.8）、アルブミン（HR2.0）、血小板数（HR1.6）が同定された。ROC解析によるAUROCは、年齢は0.674、血小板数は0.715、AFP値は0.771、アルブミンは0.647であった。5年以内の発がんリスクを予測するデータマイニング解析では、年齢55歳以上、アルブミン4.0未満、AST30以上、血小板15万未満、AFP5.0以上が有意因子として抽出され、これらの組み合わせにより5年発がん率が0%の症例から、最大で38%の症例までを分類することができた。全体の58%の症例は、5年発がん率0%に分類されたが、全体の32%の症例は5年発がん率が12-17%であり、全体の10%の症例は、5年発がん率38%であった。このデータマイニングモデルを活用することで、HCV駆除後にも発癌リスクが高い症例を囲い込むことが可能となる。

A．研究目的

インターフェロン治療によりC型肝炎ウイルス（HCV）が駆除されると肝がんの発生率が低下することが証明されているが、一部の症例では依然として低率ながら発癌が見られる。今後、抗ウイルス治療の進歩によりHCV駆除率が上昇すれば、HCV駆除後にもかかわらず発がんする症例も増加する可能性がある。したがって、HCV駆除後に発癌するリスクが高い症例を簡便な方法で囲い込み、重点的に肝がんサーベイランスをおこなう指標を構築することが重要である。HCV駆除後の発癌例は、個々の施設では少数例にとどまるが、多施設共同研究により症例を収集することで、臨床的特徴を明らかにできる可能性がある。今回、全国の日本赤十字病院のネットワークを活用し、スケールメリットを生かして症例を集積し、インターフェロン治療でHCVが駆除された後に発癌する症例を分析した。

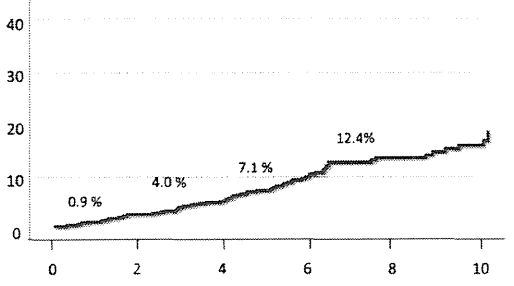
B．研究方法

全国の日本赤十字病院で、C型慢性肝炎に対してインターフェロン治療を行い、ウイルス学的な著効（SVR）が得られた症例の臨床データをレトロスペクティブに収集した。治療開始前、治療終了後24週時点のデータを収集し、SVR後の発癌に寄与する因子を解析するための、データベースを構築した。従来型の統計で、発がん関連因子を解析するとともに、IBM-SPSSソフトウエアModelerを用いたデータマイニング解析を行い、5年以内の発がんを予測するdecision treeモデルを構築した。全症例のうち、ランダムに抽出した316例でモデルを作成し、残りの181例をモデルに当てはめて再現性を検証した。

C．研究結果

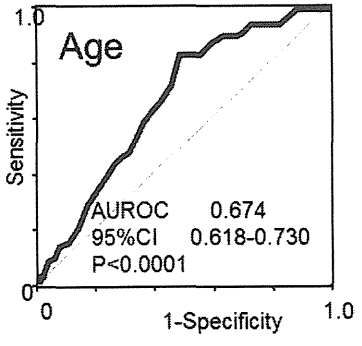
対象症例の臨床背景は、平均年齢55歳、男性56%、肝線維化進行例（F3-4）　19%であった。

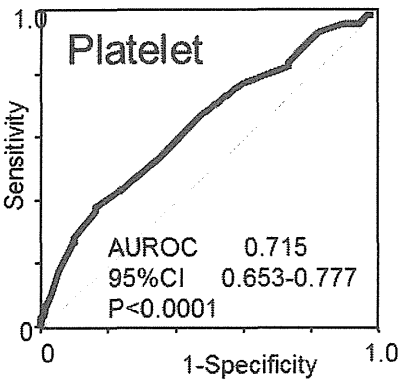
累積発がん率は、1年0.9%、3年4.0%、5年7.1%、7年12.4%であった。

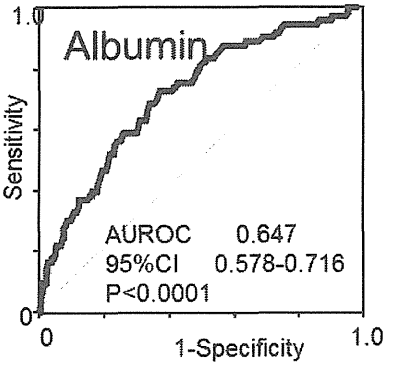


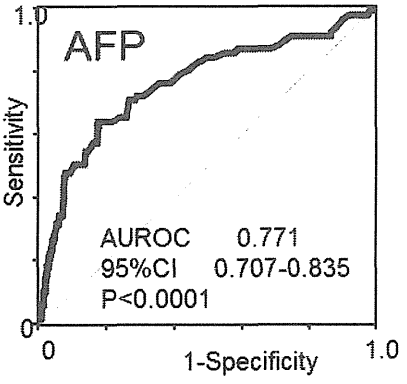
発癌と関連する因子は、多変量Cox比例ハザード解析では、性別（HR2.5）、年齢（HR2.9）、AFP（HR3.8）、アルブミン（HR2.0）、血小板数（HR1.6）が同定された。

ROC解析によるAUROCは、年齢は0.674、血小板数は0.715、AFP値は0.771、アルブミンは0.647であった。



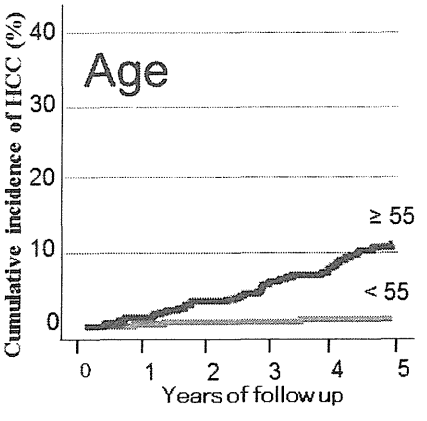


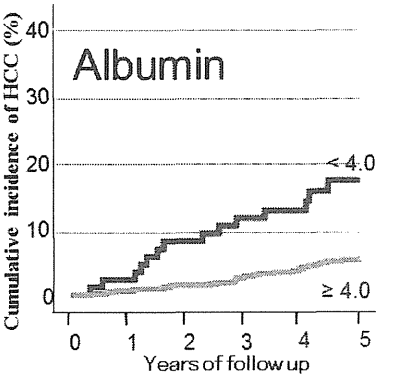


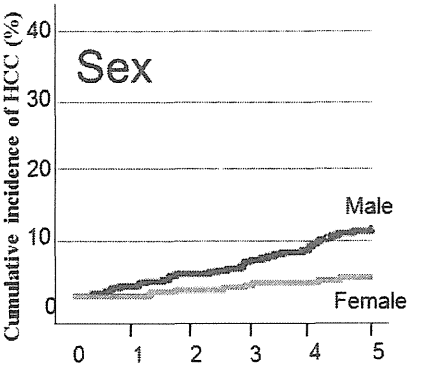


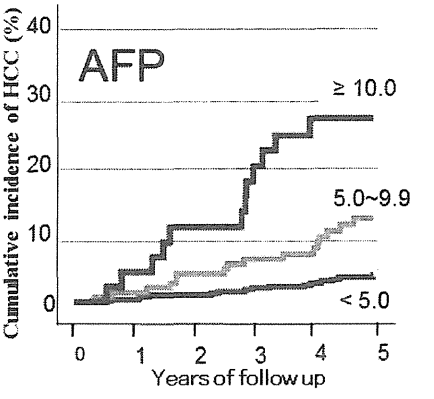
各有意因子によって層別化した累積発がん率のKaplan Meir解析結果を示す。

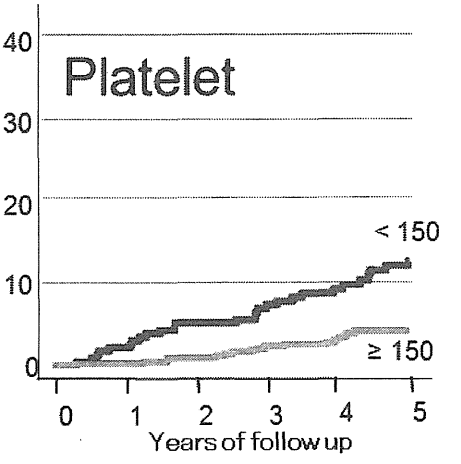
年齢、性別、アルブミン、AFP、血小板数が、経時的な発がんリスクを反映する臨床的な指標であることが確認された。



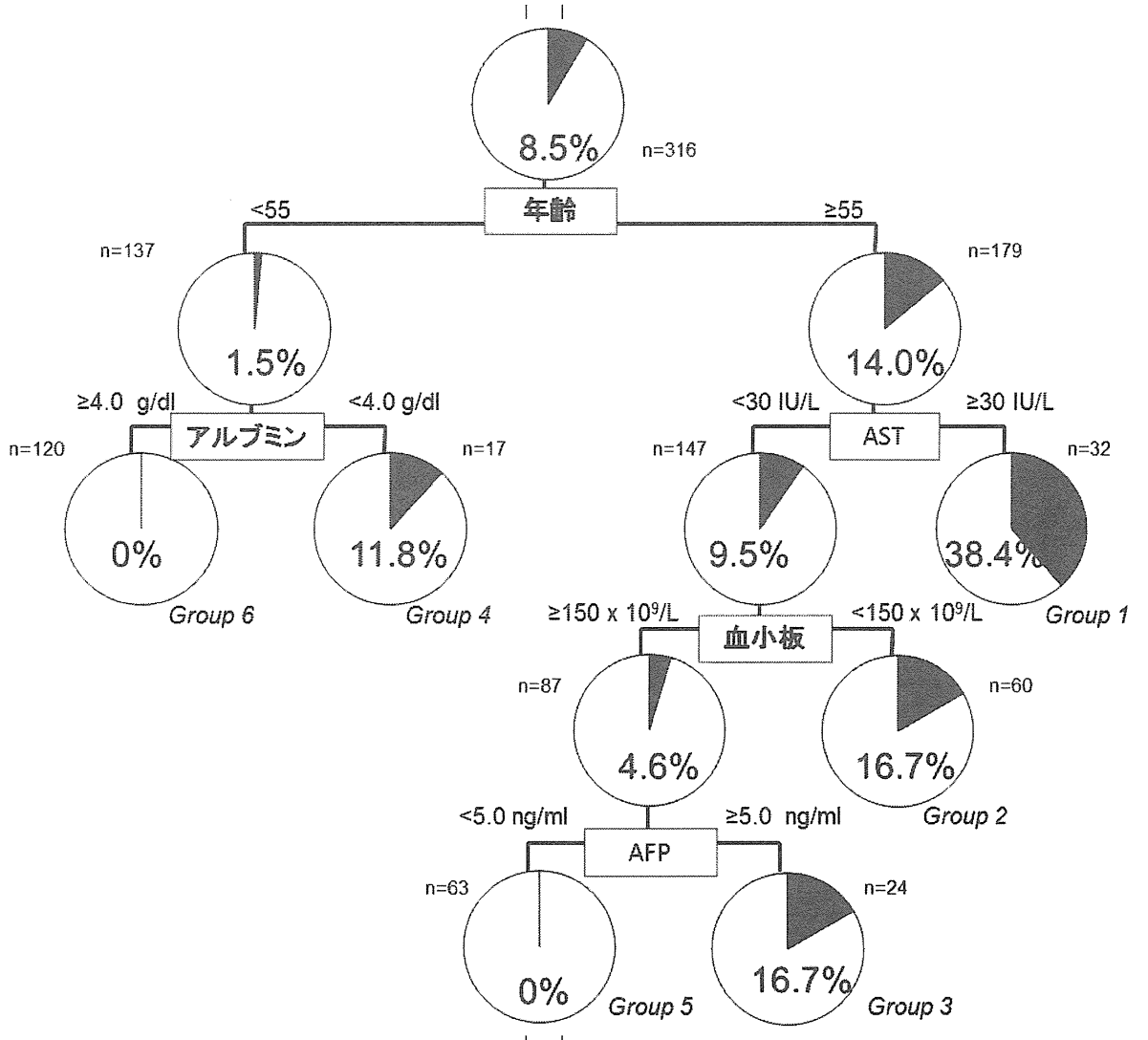








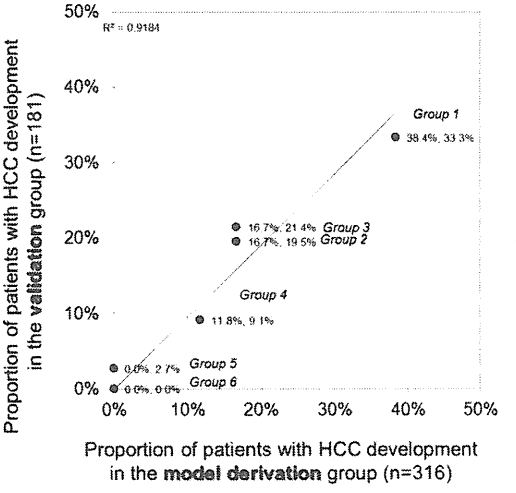
すべての因子を投入した5年以内の発がんリスクを予測するデータマイニング解析では、年齢55歳以上、アルブミン4.0未満、AST30以上、血小板15万未満、AFP5.0以上が有意因子として抽出され、これらの組み合わせにより5年発がん率が0%の症例から、最大で38%の症例までを分類することができた。



若年でアルブミン値が高い症例では、5年発がんリスクは0%であった。一方、55歳以上の症例でも、ASTが30未満、血小板が15万以上、AFPが5.0未満のすべてを満たした場合には、発がん率は0%であった。全体の58%の症例は、5年発がん率0%の2グループに分類された。

若年でもアルブミン値が4.0未満であれば、11.8%が5年以内に発癌し、55歳以上でAST30以上、血小板15万未満、AFP5.0以上のいずれかに該当すれば、発がん率は16.7-38.4%であった。全体の32%の症例は5年発がん率が12-17%の3グループに分類され、全体の10%の症例は、5年発がん率が38%と極めて高いグループに分類された。

このモデルの妥当性を検証するために、モデル作成に使用しなかった症例を当てはめて、発がん率を算出したところ、各グループの発がん率はモデル作成群と検証群の間で、良好な相関を示し、モデルの妥当性が検証された



厚生労働科学研究費補助金（難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業（肝炎関係研究分野））
分担研究報告書

D．考察

全国の日本赤十字病院のネットワークを活用し、スケールメリットを生かして症例を集積し、SVR後に発癌する症例の特徴を分析し、HCV駆除後の発がんリスクを事前に予測し、高リスク症例を囲い込むモデルを作成した。治療でHCV が駆除されるのみならず、ASTが30未満に低下することや、AFPが5.0未満に低下することで発癌が抑止される可能性が考えられる。また、血小板15万未満の症例は、肝線維化進行例であり、HCV駆除後も発がんリスクが高いことを認識する必要がある。

E．結論

全国の日本赤十字病院の多施設共同研究により、SVR後に発癌する症例の臨床像の一端が明らかになった。このデータマイニングモデルを活用することで、HCV駆除後にも発癌リスクが高い症例を囲い込むことが可能となる。

G．研究発表

1. 論文発表

- **Kurosaki M**, Hiramatsu N, Sakamoto M, Suzuki Y, Iwasaki M, Tamori A, Matsuura K, Kakinuma S, Sugauchi F, Sakamoto N, Nakagawa M, Izumi N. Data mining model using simple and readily available factors could identify patients at high risk for hepatocellular carcinoma in chronic hepatitis C. J Hepatol 2012 ;56(3):602-8.
- Tamaki N, **Kurosaki M**, Tanaka K, Suzuki Y, Hoshioka Y, Kato T, Yasui Y, Hosokawa T, Ueda K, Tsuchiya K, Nakanishi H, Itakura J, Asahina Y, Izumi N.Non-invasive estimation of fibrosis progression overtime using the FIB-4 index in chronic hepatitis C. J Viral Hepat 2013; 20:72-76.
- Hosokawa T, **Kurosaki M**, Tsuchiya K, Matsuda H, Muraoka M, Suzuki Y, Tamaki N, Yasui Y, Nakata T, Nishimura T, Suzuki S, Ueda K, Nakanishi H, Itakura J, Takahashi Y, Izumi N. Hyperglycemia is a significant prognostic factor of hepatocellular carcinoma after curative therapy. World J Gastroenterol 2013;19:249-257.

2. 学会発表

米国肝臓学会2012：Kurosaki et al. Predictive factors for the development of hepatocellular carcinoma in chronic hepatitis C following sustained virological response to interferon therapy

H．知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

特になし

刊行物一覧

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書　籍　名	出版社名	出版地	出版年	ページ

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Kurosaki M, Hiramatsu N, Sakamoto M, Suzuki Y, Iwasaki M, Tamori A, Matsuura K, Kakinuma S, Sugauchi F, Sakamoto N, Nakagawa M, Izumi N.	Data mining model using simple and readily available factors could identify patients at high risk for hepatocellular carcinoma in chronic hepatitis C.	Journal of Hepatology	56(3):	602-8	2012
Tamaki N, **Kurosaki M**, Tanaka K, Suzuki Y, Hoshioka Y, Kato T, Yasui Y, Hosokawa T, Ueda K, Tsuchiya K, Nakanishi H, Itakura J, Asahina Y, Izumi N.	Non-invasive estimation of fibrosis progression overtime using the FIB-4 index in chronic hepatitis C	Journal of Viral Hepatitis	20	72-76	2013
Hosokawa T, **Kurosaki M**, Tsuchiya K, Matsuda H, Muraoka M, Suzuki Y, Tamaki N, Yasui Y, Nakata T, Nishimura T, Suzuki S, Ueda K, Nakanishi H, Itakura J, Takahashi Y, Izumi N.	Hyperglycemia is a significant prognostic factor of hepatocellular carcinoma after curative therapy.	World Journal of Gastroenterology	19	249-257	2013

Research Article

EASL EUROPEAN ASSOCIATION FOR THE STUDY OF THE LIVER | JOURNAL OF HEPATOLOGY

Data mining model using simple and readily available factors could identify patients at high risk for hepatocellular carcinoma in chronic hepatitis C

Masayuki Kurosaki[1], Naoki Hiramatsu[2], Minoru Sakamoto[3], Yoshiyuki Suzuki[4], Manabu Iwasaki[5], Akihiro Tamori[6], Kentaro Matsuura[7], Sei Kakinuma[8], Fuminaka Sugauchi[9], Naoya Sakamoto[8], Mina Nakagawa[8], Namiki Izumi[1,*]

[1]*Division of Gastroenterology and Hepatology, Musashino Red Cross Hospital, Tokyo, Japan;* [2]*Department of Gastroenterology and Hepatology, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan;* [3]*First Department of Internal Medicine, University of Yamanashi, Yamanashi, Japan;* [4]*Department of Hepatology, Toranomon Hospital, Tokyo, Japan;* [5]*Department of Computer and Information Science, Seikei University, Tokyo, Japan;* [6]*Department of Hepatology, Osaka City University Medical School, Osaka, Japan;* [7]*Department of Gastroenterology and Metabolism, Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences, Nagoya, Japan;* [8]*Department of Gastroenterology and Hepatology, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo, Japan;* [9]*Department of Gastroenterology, Nagoya Koseiin Medical Welfare Center, Nagoya, Japan*

Background & Aims: Assessment of the risk of hepatocellular carcinoma (HCC) development is essential for formulating personalized surveillance or antiviral treatment plan for chronic hepatitis C. We aimed to build a simple model for the identification of patients at high risk of developing HCC.

Methods: Chronic hepatitis C patients followed for at least 5 years (n = 1003) were analyzed by data mining to build a predictive model for HCC development. The model was externally validated using a cohort of 1072 patients (472 with sustained virological response (SVR) and 600 with nonSVR to PEG-interferon plus ribavirin therapy).

Results: On the basis of factors such as age, platelet, albumin, and aspartate aminotransferase, the HCC risk prediction model identified subgroups with high-, intermediate-, and low-risk of HCC with a 5-year HCC development rate of 20.9%, 6.3–7.3%, and 0–1.5%, respectively. The reproducibility of the model was confirmed through external validation ($r^2 = 0.981$). The 10-year HCC development rate was also significantly higher in the high- and intermediate-risk group than in the low-risk group (24.5% *vs.* 4.8%; $p < 0.0001$). In the high-and intermediate-risk group, the incidence of HCC development was significantly reduced in patients with SVR compared to those with nonSVR (5-year rate, 9.5% *vs.* 4.5%; $p = 0.040$).

Conclusions: The HCC risk prediction model uses simple and readily available factors and identifies patients at a high risk of HCC development. The model allows physicians to identify patients requiring HCC surveillance and those who benefit from IFN therapy to prevent HCC.

Keywords: Decision tree; Prediction; Pegylated interferon; Ribavirin; Risk.
Received 27 May 2011; received in revised form 8 August 2011; accepted 4 September 2011

* Corresponding author. Address: Division of Gastroenterology and Hepatology, Musashino Red Cross Hospital, 1-26-1 Kyonan-cho, Musashino-shi, Tokyo 180-8610, Japan. Tel.: +81 422 32 3111; fax: +81 422 32 9551.
E-mail address: nizumi@musashino.jrc.or.jp (N. Izumi).

Introduction

Hepatocellular carcinoma (HCC) is the sixth most common cancer worldwide [1] and its incidence is increasing in many countries [2]. Chronic viral hepatitis is responsible for 80% of all HCC cases [2]. The need to conduct HCC surveillance should be determined according to the risk of HCC development because this surveillance is cost-effective only in populations with an annualized cancer development rate of ⩾1.5% [3]. The annualized rate of developing HCC from type C liver cirrhosis is 2–8% [4–6], indicating that this population with type C liver cirrhosis needs surveillance. However, the annualized rate of HCC development is <1.5% in patients with chronic hepatitis C but without cirrhosis and the benefit of surveillance for all patients with chronic hepatitis has not yet been established [3]. HCC surveillance may be needed for patients with advanced fibrosis because the risk of HCC development increases in parallel with the progression of liver fibrosis [7,8]. Liver biopsy is the most accurate means of diagnosing fibrosis, but a single liver biopsy cannot indicate long-term prognosis because liver fibrosis progresses over time. Serial liver biopsies are not feasible because of the procedure's invasiveness. Moreover, factors other than fibrosis, such as advanced age, obesity, sex, lower albumin, and low platelet counts, also contribute to the development of HCC from chronic hepatitis C [8–11]. Therefore, these factors must be considered while assessing the risk of HCC development.

A meta-analysis of controlled trials [12] has shown that interferon (IFN) therapy reduced the rate of HCC development in patients with type C liver cirrhosis. However, there was a marked heterogeneity in the magnitude of the prevention effect

Cancer

Please cite this article in press as: Kurosaki M et al. Data mining model using simple and readily available factors could identify patients at high risk for hepatocellular carcinoma in chronic hepatitis C. J Hepatol (2011), doi:10.1016/j.jhep.2011.09.011

of IFN on HCC development among the studies, probably due to the large differences in the baseline rate of HCC development among the different trials [12]. Whether the incidence of HCC development could be reduced in all patients with chronic hepatitis C, especially in those without liver cirrhosis, remains to be elucidated.

Data mining analysis, unlike conventional statistical analysis, is performed in an exploratory manner without considering a predefined hypothesis. Decision tree analysis, the major component of data mining analysis, is used to extract relevant factors from among various factors. These relevant factors are then combined in an orderly sequence to identify rules for predicting the incidence of the target outcome [13]. Data mining analysis has been used to define prognostic factors in various diseases [14–20]. In the field of hepatic diseases, data mining analysis has proven to be a useful tool for predicting early response [21], sustained virological response (SVR) [22–25], relapse [26], and adverse events [27] in patients with chronic hepatitis C treated with pegylated interferon (PEG-IFN) plus ribavirin (RBV). The findings of data mining analysis are expressed as flowcharts and are therefore easily understood [28] and readily available for clinical use, even by physicians without a detailed understanding of statistics.

In the present study, data mining analysis was used to identify risk factors for HCC development in a cohort of patients with chronic hepatitis C who had been followed for at least 5 years. An HCC risk prediction model was constructed on the basis of simple and generally available tests because the goal was to make the model easy to use in the clinic. The suitability, reproducibility, and generalizability of the results were validated using the data of an external cohort that was independent of the model derivation cohort.

Materials and methods

Patients

The model derivation cohort consisted of 1003 chronic hepatitis C patients without cirrhosis who had a non-sustained virological response (nonSVR) to previous IFN administered at the Musashino Red Cross Hospital and were followed for at least 5 years. Patients who had SVR or those who were followed for less than 5 years were not included. An analytical database on age, body mass index, albumin, aspartate aminotransferase (AST) levels, alanine aminotransferase (ALT) levels, γ-glutamyltransferase (GGT) levels, total bilirubin levels, total cholesterol levels, hemoglobin levels, and platelet count at the start of the observation was created. Histological data such as fibrosis stage, activity grade, or degree of steatosis was not included in the database because the goal of the present study was to make the model on the basis of simple and generally available tests. The patients who developed HCC more than 5 years after the start of the observation were considered not to have developed HCC by the 5-year point because the model was intended to predict HCC development within 5 years. The 1072 chronic hepatitis C patients included in the external validation cohort were treated with PEG-IFN and RBV at the University of Yamanashi, Tokyo Medical and Dental University, Osaka University, Osaka City University, Nagoya City University, or Toranomon Hospital and followed for at least 5 years. Among them, 600 had nonSVR and 472 had SVR. Data from nonSVR patients in this external cohort were used for external validation of the HCC prediction model. To assess the preventive effect of PEG-IFN plus RBV therapy on HCC development, the cumulative HCC development rate was compared between SVR and nonSVR patients in the external validation cohort after stratification by the risk of HCC development as determined by data mining analysis. Informed consent was obtained from each patient. The study protocol conformed to the ethical guidelines of the Declaration of Helsinki and was approved by the institutional review committees of all concerned hospitals.

HCC surveillance and diagnosis

HCC surveillance was conducted by performing abdominal ultrasonography every 4–6 months. Contrast-enhanced computer tomography, magnetic resonance imaging, or angiography were performed when abdominal ultrasonography suggested a new lesion suspicious for HCC. Classical HCC was diagnosed for tumors showing vascular enhancement with washout on at least two types of diagnostic imaging. Tumor biopsy was used to diagnose tumors with non-classical imaging findings.

Statistical analysis

The IBM-SPSS Modeler 13 (IBM SPSS Inc., Chicago, IL, USA) was used for decision tree analysis. The statistical methods used have been described previously [21,22,24–27]. In brief, the software searched the analytical database for the factor that most effectively predicted HCC development and for its cutoff value. The patients were divided into two groups according to that predictor. Each divided group was repeatedly assessed and divided according to this 2-choice branching method. Branching was stopped when the number of patients decreased to ≤ 20 to avoid over fitting. Finally, an HCC risk prediction model was created through this analysis. The model classified patients into subgroups with different HCC development rates in a flowchart form. For model validation, nonSVR patients from an external cohort were individually fitted into the model and classified into the subgroups and the HCC development rates of those subgroups were then calculated. The suitability and reproducibility of the model were validated by comparing the subgroup HCC development rates of the model derivation group to those of the validation group.

On univariate analysis, Student's *t*-test was used for continuous variables and Fisher's exact test was used for categorical data. Logistic regression was used for multivariate analysis. A log-rank test for Kaplan–Meier analysis was used to statistically test HCC development rates over time. *p*-Values of <0.05 were considered significant. SPSS Statistics 18 (IBM SPSS Inc.) was used for these analyses.

Results

Univariate and multivariate analysis of factors associated with HCC development

The baseline characteristics of patients are shown in Table 1. The 5-year HCC development rate in the model derivation group was 6.2%, which did not differ significantly from the rate of 6.0% in the nonSVR group of the external cohort, but the rate of 2.0% in the SVR group of the external cohort was significantly lower than that in the model derivation group ($p = 0.0003$) and the nonSVR group of the external cohort ($p = 0.0012$). On univariate analysis, the factors found to be associated with HCC development in the model derivation cohort were age, AST levels, albumin levels, total cholesterol levels, and platelet count. On multivariate analysis, age (odds ratio 1.086), albumin levels (odds ratio 0.248), and platelet count (odds ratio 0.842) were significant predictors of HCC development (Table 2).

HCC risk prediction model by data mining analysis

The results of decision tree analysis are presented in Fig. 1. Age was selected as the first predictor. The 5-year HCC development rate was 3.4% in younger patients (<60 years) and 8.6% in older patients ($\geq$60 years). The second predictor for younger patients (<60 years) was platelet count. The HCC development rate was 6.9% in patients with a lower platelet count ($<150 \times 10^9$/L) and 0.8% in patients with a higher count ($\geq 150 \times 10^9$/L). The second predictor for older patients ($\geq$60 years) was also platelet count. The HCC development rate was 13.1% in patients with a lower platelet count ($<150 \times 10^9$/L) and 1.8% in patients with a higher count ($\geq 150 \times 10^9$/L). The third predictor was albumin levels,

Please cite this article in press as: Kurosaki M et al. Data mining model using simple and readily available factors could identify patients at high risk for hepatocellular carcinoma in chronic hepatitis C. J Hepatol (2011), doi:10.1016/j.jhep.2011.09.011

Table 1. Baseline characteristics of patients for model deviation and external validation.

	Model derivation (n = 1003)	External cohort, non-SVR (n = 600)	External cohort, SVR (n = 472)
Sex: Male/Female*	463 (46%)/540 (54%)	306 (51%)/294 (49%)	299 (63%)/173 (37%)
Age (yr)	57.3 (11.1)	55.9 (9.6)	51.4 (10.6)
Body mass index (kg/m^2)	23.5 (3.2)	23.4 (3.3)	23.3 (3.1)
Albumin (g/dl)	4.1 (0.3)	4.0 (0.4)	4.0 (0.3)
AST (IU/L)	64.2 (36.5)	67.3 (43.8)	62.5 (48.3)
ALT (IU/L)	80.6 (55.1)	81.2 (62.3)	88.6 (82.1)
GGT (IU/L)	59.3 (50.5)	67.6 (65.1)	55.7 (71.2)
Total cholesterol (mg/dl)	172.1 (31.5)	168.2 (31.0)	174.3 (33.7)
Platelet (10^9/L)	154.0 (53.0)	153.7 (53.2)	176.6 (49.7)
Hemoglobin (g/dl)	13.3 (1.5)	14.2 (1.5)	14.4 (1.4)
HCC development within 5 years: n (%)*	62 (6.2%)	36 (6.0%)	10 (2.0%)

Data expressed as mean (standard deviation) unless otherwise indicated.
AST, aspartate aminotransferase; ALT, alanine aminotransferase; GGT, gamma-glutamyltransferase; HCC, hepatocellular carcinoma; SVR, sustained virological response.
*Data expressed as number of patients (percentage).

whose cutoff value was 3.75 g/dl in patients with a higher platelet count ($\geqslant 150 \times 10^9$/L). The HCC development rate was 6.3% when albumin levels were lower (<3.75 g/dl) and 1.5% when levels were higher ($\geqslant$3.75 g/dl). The cutoff value for albumin levels was 4.0 g/dl in patients with a lower platelet count (<150 × 10^9/L). The HCC development rate was 20.9% when albumin levels were lower (<4.0 g/dl) and 6.4% when levels were higher ($\geqslant$4.0 g/dl). The fourth and final predictor was AST levels. The HCC development rate was 7.3% when AST levels were at least 40 IU/L and 0% when the levels were <40 IU/L. On the basis of this analysis, seven subgroups with a 5-year HCC development rate of 0–20.9% were identified. The area under the receiver operating characteristic curve according to the HCC risk prediction model was 0.817.

External validation of the HCC risk prediction model with an independent external cohort

Six hundred nonSVR patients from an external cohort were fitted into the HCC risk prediction model and classified into the seven subgroups. The 5-year HCC development rate of these subgroups was 0–17.9%. The HCC development rate in the individual subgroups of the model derivation group was closely correlated to that in the corresponding subgroups of the external validation group (Fig. 2; correlation coefficient $r^2 = 0.981$). The HCC development rate in the subgroup of patients with the highest risk of HCC development (high-risk group) according to the model older age ($\geqslant$60 years) with a lower platelet count (<150 × 10^9/L) and lower albumin levels (<4.0 g/dl) was 20.9% in the model derivation group and 17.9% in the external validation group. The intermediate-risk group or the patients with an HCC development rate of at least 5% consisted of the following three subgroups: (1) older age ($\geqslant$60 years), lower platelet count (<150 × 10^9/L), higher albumin levels ($\geqslant$4.0 g/dl), and higher AST levels ($\geqslant$40 IU/L); (2) older age ($\geqslant$60 years), higher platelet count ($\geqslant 150 \times 10^9$/L), and lower albumin levels (<3.75 g/dl); and (3) younger age (<60 years) and lower platelet count (<150 × 10^9/L). In these intermediate-risk groups, the 5-year HCC development rate was 6.3–7.3% in the model derivation group and 5.3–7.9% in the external validation group. The low-risk group consisted of the following three subgroups: (1) younger age (<60 years) and higher platelet count ($\geqslant 150 \times 10^9$/L); (2) older age ($\geqslant$60 years), lower platelet count (<150 × 10^9/L), higher albumin levels ($\geqslant$4.0 g/dl), and lower AST levels (<40 IU/L); and (3) older age ($\geqslant$60 years), higher platelet count ($\geqslant 150 \times 10^9$/L), and higher albumin levels ($\geqslant$3.75 g/dl). In these low-risk groups, the 5-year HCC development rate was 0–1.5% in the model derivation group and 0–2.9% in the external validation group.

Table 2. Multivariable analysis of factors associated with subsequent development of HCC within 5 years.

	Odds ratio	95% CI	*p* value
Age	1.086	1.029-1.146	0.003
Albumin	0.248	0.100-0.613	0.003
Platelet	0.842	0.769-0.921	<0.0001

CI, confidence interval.

Predictability of the HCC risk prediction model on HCC development rate beyond 5 years

Cumulative HCC development rates in the high-, intermediate-, and low-risk groups were compared over time using the Kaplan–Meier method. The 10-year rates were 28.9% in the high-risk group, 22.9% in the intermediate-risk group, and 4.8% in the low-risk group (Fig. 3A). The high and intermediate-risk group created by pooling data from the high- and intermediate-risk groups had a significantly higher cumulative HCC development rate than the low-risk group beyond 5 years (Fig. 3B; 5-year rate, 11.6% *vs.* 1.0%; 10-year rate, 24.5% *vs.* 4.8%; p <0.0001).

Effect of response to PEG-IFN plus RBV therapy in the reduction of HCC development: analysis stratified by the HCC risk prediction model

The 600 nonSVR patients and 472 SVR patients in the external cohort were fitted into the HCC risk prediction model and

Cancer

Please cite this article in press as: Kurosaki M et al. Data mining model using simple and readily available factors could identify patients at high risk for hepatocellular carcinoma in chronic hepatitis C. J Hepatol (2011), doi:10.1016/j.jhep.2011.09.011

Research Article

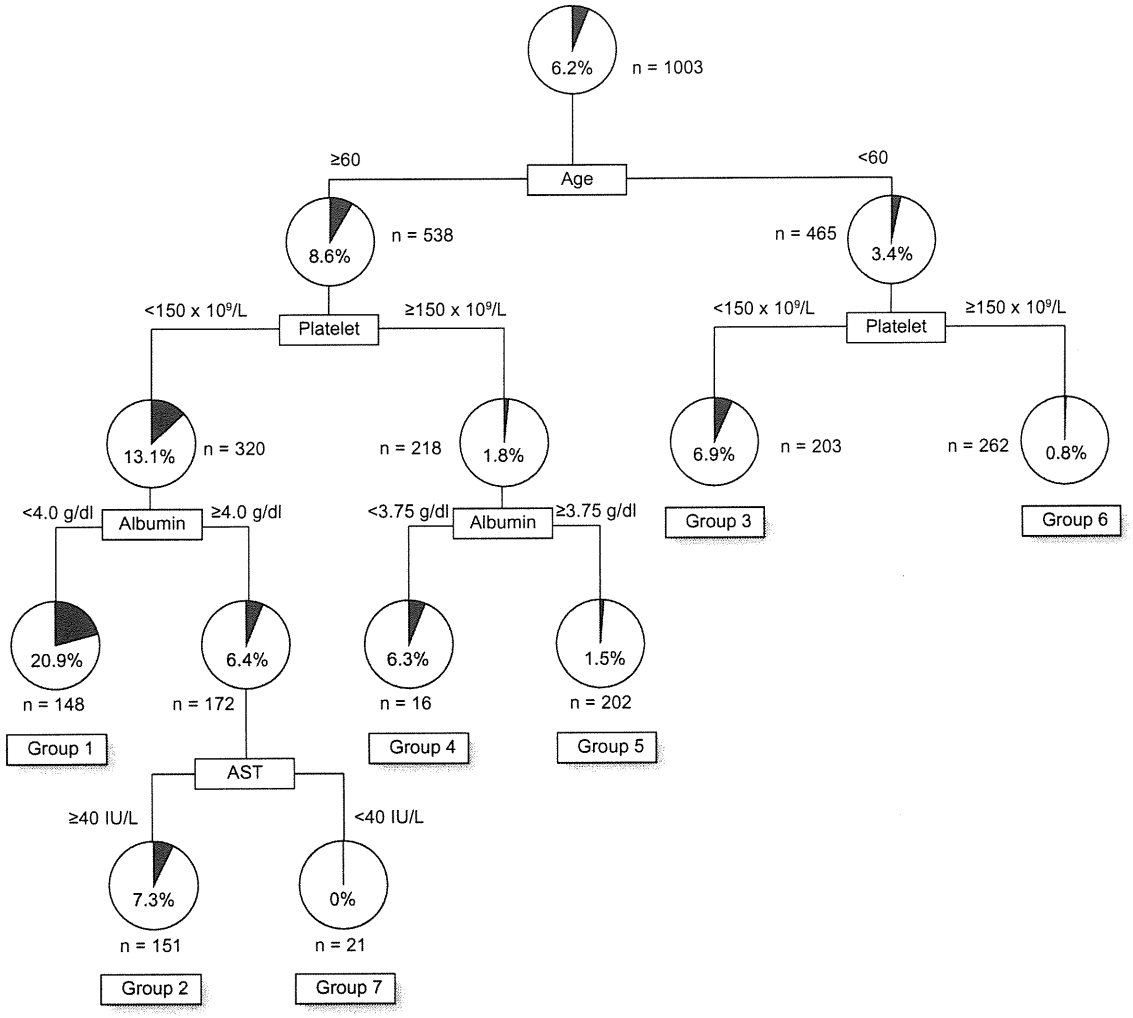


Fig. 1. The decision tree model of HCC development within 5 years. Boxes indicate the factors used to differentiate patients and the cutoff values for those different groups. Pie charts indicate the HCC development rate within 5 years for each group of patients after differentiation. Terminal groups of patients differentiated by analysis are numbered from 1 to 7.

classified into the high-and intermediate-risk group or the low-risk group, as defined above. The HCC development rate was significantly lower in SVR patients than in nonSVR patients in the high-and intermediate-risk group (5-year HCC rate, 9.5% *vs.* 4.5%; $p = 0.040$, log-rank test). In the low-risk group, the 5-year rate was 1.8% in nonSVR patients and 0.9% in SVR patients. Both rates were low and not significantly different ($p = 0.331$, log-rank test) (Fig. 4).

Discussion

An awareness of the risk of HCC development in the context of routine care for chronic hepatitis C is essential for formulating an HCC surveillance plan personalized for individual patients. The risk of developing HCC from chronic hepatitis is lower than that from cirrhosis [7]; therefore, across-the-board surveillance for chronic hepatitis C is not recommended [3]. A method to easily determine this risk, without performing serial liver biopsies, would be extremely significant clinically. In the present study, an HCC risk prediction model that included the factors such as age, platelet count, albumin levels, and AST levels was constructed. The model was found to have excellent reproducibility when validated with an external cohort. This model could identify subgroups of chronic hepatitis C patients at high risk of HCC development; the 5-year HCC development rate for the high- and intermediate-risk groups was 11.6%, yielding an annual incidence of 2.3%. This HCC risk prediction model requires only

Please cite this article in press as: Kurosaki M et al. Data mining model using simple and readily available factors could identify patients at high risk for hepatocellular carcinoma in chronic hepatitis C. J Hepatol (2011), doi:10.1016/j.jhep.2011.09.011

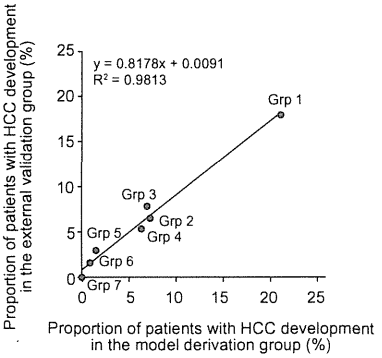


Fig. 2. External validation of the decision tree model with an independent cohort. Each patient in the external validation group was allocated to groups 1–7 following the flowchart of the decision tree. The HCC development rates were then calculated for each group and the graph plotted. The *x*-axis represents the HCC development rate in the model derivation group, and the *y*-axis represents the HCC development rate in the external validation group. The HCC development rates in each subgroup of patients are closely correlated between the model derivation group and the external validation group (correlation coefficient: $R^2 = 0.981$).

simple test values that are readily obtained in routine care and can therefore be easily used at the patient bedside. The model can be used to identify patients with a high risk of HCC development and therefore requiring surveillance, thereby allowing the formulation of surveillance plans personalized for individual patients.

Advanced fibrosis has been reported as independent risk factors for HCC development [7,8]. Platelet counts and albumin levels, which were factors selected for discrimination of the risk of HCC development, are closely related to the stage of fibrosis. Their correlation with the HCC risk has been repeatedly demonstrated [9–11,29–31]. The present study confirmed the impact of old age and advanced fibrosis, as reflected by low platelet counts and albumin levels. These results are consistent with our previous report [32]. What is unique to the present study was the study design to build a simple and reliable model for

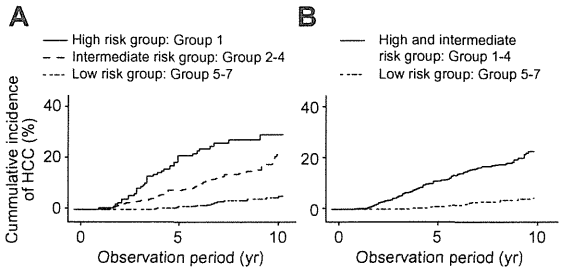


Fig. 3. Cumulative incidence of HCC development beyond 5 years in subgroups of patients defined by the decision tree model. Cumulative incidences of HCC in the groups classified by the decision tree model are compared. (A) The cumulative HCC development rate beyond 5 years is higher in the high- (group 1) and intermediate-risk (groups 2–4) groups compared to the low-risk group (groups 5–7). (B) The high and intermediate-risk group created by pooling data from the high- and intermediate-risk groups has a significantly higher cumulative HCC development rate than the low-risk group (5-year rate, 11.6% *vs.* 1.0%; 10-year rate, 24.5% *vs.* 4.8%; $p < 0.0001$).

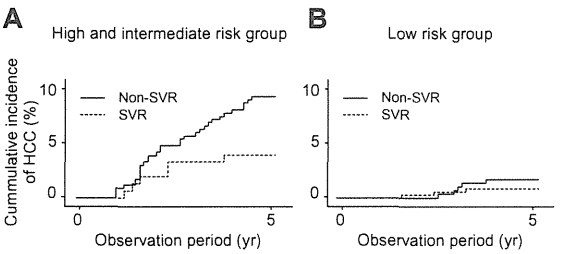


Fig. 4. Sustained virological response to PEG-IFN plus RBV therapy reduces the incidence of HCC development after stratification by the HCC risk. The 600 nonSVR patients and the 472 SVR patients in the external cohort were fitted into the HCC risk prediction model and classified into the high and intermediate-risk group or the low-risk group. The HCC development rate is significantly lower in SVR patients than in nonSVR patients in the high and intermediate-risk group (groups 1–4) (5-year HCC rate, 9.5% *vs.* 4.5%; $p = 0.040$). In the low-risk group (groups 5–7), the 5-year rate is 1.8% in nonSVR patients and 0.9% in SVR patients. Both rates are low and not significantly different ($p = 0.331$).

the prediction of HCC development that could be easily used in the clinic. For this purpose, a novel statistical method was used, histological factors were excluded in the analysis, the model derivation cohort was restricted to those who had nonSVR and had a long follow-up period duration (5 years), and the reproducibility of the model was independently validated by an external cohort. These are the major differences of the present study compared to our previous report. Many researchers have put a lot of efforts to formulate regression models for HCC prediction [9,10,33]. These prediction models are useful for identifying high-risk patients but are somewhat complicated to use at the bedside because they require calculations to be performed. Our prediction model is used simply by incorporating patients' data obtained through simple tests into the decision tree and following the flowchart. These prediction models based on factors easily accessible in routine clinical settings help physicians identify high-risk patients out of chronic hepatitis.

Viral eradication is the short-term goal of IFN therapy, but the ultimate goal is the prevention of HCC occurrence. Previous reports have shown that SVR to IFN therapy suppresses HCC occurrence in patients with type C liver cirrhosis and chronic hepatitis [7,12,30,34,35]. However, there is a marked heterogeneity in the magnitude of the treatment effect on the risk of HCC among studies, probably due to differences in the baseline risk of HCC among different trials [12]. Thus, the question remains whether the preventive effect of IFN therapy on HCC development could apply to all patients with chronic hepatitis C, especially those without liver cirrhosis. The result of the present study indicated that among high- and intermediate-risk patients, as assessed with our HCC risk prediction model, the cumulative HCC development rate was significantly reduced in SVR patients compared with nonSVR patients. This finding suggests that patients with chronic hepatitis, in whom disease has not yet progressed to hepatic cirrhosis but who are at a high risk of HCC development, benefit from antiviral treatment. The preventive effect of IFN on HCC development was not evident in low-risk patients within 5 years of observation. A longer observation term may be required to analyze the possible effect of antiviral therapy in these patients. Application of the present model on treatment decision may have limitations in that effect to prevent HCC development may differ in newer therapeutic agents such as protease

Please cite this article in press as: Kurosaki M et al. Data mining model using simple and readily available factors could identify patients at high risk for hepatocellular carcinoma in chronic hepatitis C. J Hepatol (2011), doi:10.1016/j.jhep.2011.09.011

inhibitors [36,37], and that low-risk patients may also benefit from therapy after a longer term observation period such as 15–20 years.

Patients with chronic hepatitis often have no subjective symptoms accompanying their disease and therefore have a low consciousness of the disease. The broad array of adverse reactions and the high cost of IFN therapy are frequent hurdles in motivating patients to undergo therapy. However, patients may be convinced to undergo therapy or remain motivated for continued therapy if they are made aware of their risk of HCC development and the preventive effect of IFN on HCC development.

In conclusion, a reproducible HCC risk prediction model, which includes the factors such as age, platelet count, albumin levels, and AST levels, was constructed to predict the 5-year HCC development rate in patients with chronic hepatitis C. The model requires only a combination of readily available test values and can therefore be easily used at the bedside. The information provided by the model allows the physician to identify patients requiring IFN therapy for the prevention of HCC and formulate plans for imaging HCC surveillance.

Conflict of interest

The authors who have taken part in this study declared that they do not have anything to disclose regarding funding or conflict of interest with respect to this manuscript.

Financial support

This study was supported by a Grant-in-Aid from the Ministry of Health, Labor and Welfare, Japan (H20-kanen-006).

Cancer

References

[1] Parkin DM, Bray F, Ferlay J, Pisani P. Global cancer statistics, 2002. CA Cancer J Clin 2005;55:74–108.
[2] Bosch FX, Ribes J, Diaz M, Cleries R. Primary liver cancer: worldwide incidence and trends. Gastroenterology 2004;127:S5–S16.
[3] Bruix J, Sherman M. Management of hepatocellular carcinoma. Hepatology 2005;42:1208–1236.
[4] Fattovich G, Giustina G, Degos F, Tremolada F, Diodati G, Almasio P, et al. Morbidity and mortality in compensated cirrhosis type C: a retrospective follow-up study of 384 patients. Gastroenterology 1997;112:463–472.
[5] Niederau C, Lange S, Heintges T, Erhardt A, Buschkamp M, Hurter D, et al. Prognosis of chronic hepatitis C: results of a large, prospective cohort study. Hepatology 1998;28:1687–1695.
[6] Degos F, Christidis C, Ganne-Carrie N, Farmachidi JP, Degott C, Guettier C, et al. Hepatitis C virus related cirrhosis: time to occurrence of hepatocellular carcinoma and death. Gut 2000;47:131–136.
[7] Yoshida H, Tateishi R, Arakawa Y, Sata M, Fujiyama S, Nishiguchi S, et al. Benefit of interferon therapy in hepatocellular carcinoma prevention for individual patients with chronic hepatitis C. Gut 2004;53:425–430.
[8] Kurosaki M, Hosokawa T, Matsunaga K, Hirayama I, Tanaka T, Sato M, et al. Hepatic steatosis in chronic hepatitis C is a significant risk factor for developing hepatocellular carcinoma independent of age, sex, obesity, fibrosis stage and response to interferon therapy. Hepatol Res 2010;40: 870–877.
[9] Velazquez RF, Rodriguez M, Navascues CA, Linares A, Perez R, Sotorrios NG, et al. Prospective analysis of risk factors for hepatocellular carcinoma in patients with liver cirrhosis. Hepatology 2003;37:520–527.
[10] Lok AS, Seeff LB, Morgan TR, di Bisceglie AM, Sterling RK, Curto TM, et al. Incidence of hepatocellular carcinoma and associated risk factors in hepatitis C-related advanced liver disease. Gastroenterology 2009;136:138–148.
[11] Cardoso AC, Moucari R, Figueiredo-Mendes C, Ripault MP, Giuily N, Castelnau C, et al. Impact of peginterferon and ribavirin therapy on hepatocellular carcinoma: incidence and survival in hepatitis C patients with advanced fibrosis. J Hepatol 2010;52:652–657.
[12] Craxi A, Camma C. Prevention of hepatocellular carcinoma. Clin Liver Dis 2005;9:329–346, viii.
[13] Breiman LJH, Friedman RA, Olshen CJ, Stone CM. Classification and regression trees. Calif: Wadsworth; 1980.
[14] Garzotto M, Park Y, Mongoue-Tchokote S, Bledsoe J, Peters L, Blank BH, et al. Recursive partitioning for risk stratification in men undergoing repeat prostate biopsies. Cancer 2005;104:1911–1917.
[15] Miyaki K, Takei I, Watanabe K, Nakashima H, Omae K. Novel statistical classification model of type 2 diabetes mellitus patients for tailor-made prevention using data mining algorithm. J Epidemiol 2002;12:243–248.
[16] Averbook BJ, Fu P, Rao JS, Mansour EG. A long-term analysis of 1018 patients with melanoma by classic Cox regression and tree-structured survival analysis at a major referral center: implications on the future of cancer staging. Surgery 2002;132:589–602.
[17] Leiter U, Buettner PG, Eigentler TK, Garbe C. Prognostic factors of thin cutaneous melanoma: an analysis of the central malignant melanoma registry of the german dermatological society. J Clin Oncol 2004;22: 3660–3667.
[18] Valera VA, Walter BA, Yokoyama N, Koyama Y, Iiai T, Okamoto H, et al. Prognostic groups in colorectal carcinoma patients based on tumor cell proliferation and classification and regression tree (CART) survival analysis. Ann Surg Oncol 2007;14:34–40.
[19] Zlobec I, Steele R, Nigam N, Compton CC. A predictive model of rectal tumor response to preoperative radiotherapy using classification and regression tree methods. Clin Cancer Res 2005;11:5440–5443.
[20] Baquerizo A, Anselmo D, Shackleton C, Chen TW, Cao C, Weaver M, et al. Phosphorus as an early predictive factor in patients with acute liver failure. Transplantation 2003;75:2007–2014.
[21] Kurosaki M, Matsunaga K, Hirayama I, Tanaka T, Sato M, Yasui Y, et al. A predictive model of response to peginterferon ribavirin in chronic hepatitis c using classification and regression tree analysis. Hepatol Res 2010;40: 251–260.
[22] Kurosaki M, Sakamoto N, Iwasaki M, Sakamoto M, Suzuki Y, Hiramatsu N, et al. Sequences in the interferon sensitivity-determining region and core region of hepatitis C virus impact pretreatment prediction of response to PEG-interferon plus ribavirin: data mining analysis. J Med Virol 2011;83: 445–452.
[23] Izumi N, Asahina Y, Kurosaki M. Predictors of virological response to a combination therapy with pegylated interferon plus ribavirin including virus and host factors. Hepat Res Treat 2010;2010:703602.
[24] Kurosaki M, Sakamoto N, Iwasaki M, Sakamoto M, Suzuki Y, Hiramatsu N, et al. Pretreatment prediction of response to peginterferon plus ribavirin therapy in genotype 1 chronic hepatitis C using data mining analysis. J Gastroenterol 2011;46:401–409.
[25] Kurosaki M, Tanaka Y, Nishida N, Sakamoto N, Enomoto N, Honda M, et al. Pre-treatment prediction of response to pegylated-interferon plus ribavirin for chronic hepatitis C using genetic polymorphism in IL28B and viral factors. J Hepatol 2011;54:439–448.
[26] Kurosaki M, Hiramatsu N, Sakamoto M, Suzuki Y, Iwasaki M, Tamori A, et al. Age and total ribavirin dose is an independent predictor of relapse among early virological responders to peg-interferon plus ribavirin therapy in chronic hepatitis C revealed by data mining analysis. Antivir Ther, in press.
[27] Hiramatsu N, Kurosaki M, Sakamoto N, Iwasaki M, Sakamoto M, Suzuki Y, et al. Pretreatment prediction of anemia progression by pegylated interferon alpha-2b plus ribavirin combination therapy in chronic hepatitis C infection: decision-tree analysis. J Gastroenterol 2011;46:1111–1119.
[28] LeBlanc M, Crowley J. A review of tree-based prognostic models. Cancer Treat Res 1995;75:113–124.
[29] Lu SN, Wang JH, Liu SL, Hung CH, Chen CH, Tung HD, et al. Thrombocytopenia as a surrogate for cirrhosis and a marker for the identification of patients at high-risk for hepatocellular carcinoma. Cancer 2006;107: 2212–2222.
[30] Bruno S, Stroffolini T, Colombo M, Bollani S, Benvegnu L, Mazzella G, et al. Sustained virological response to interferon-alpha is associated with improved outcome in HCV-related cirrhosis: a retrospective study. Hepatology 2007;45:579–587.
[31] Bonis PA, Tong MJ, Blatt LM, Conrad A, Griffith JL. A predictive model for the development of hepatocellular carcinoma, liver failure, or liver transplantation for patients presenting to clinic with chronic hepatitis C. Am J Gastroenterol 1999;94:1605–1612.

Please cite this article in press as: Kurosaki M et al. Data mining model using simple and readily available factors could identify patients at high risk for hepatocellular carcinoma in chronic hepatitis C. J Hepatol (2011), doi:10.1016/j.jhep.2011.09.011

[32] Asahina Y, Tsuchiya K, Tamaki N, Hirayama I, Tanaka T, Sato M, et al. Effect of aging on risk for hepatocellular carcinoma in chronic hepatitis C virus infection. Hepatology 2010;52:518–527.
[33] Ganne-Carrie N, Chastang C, Chapel F, Munz C, Pateron D, Sibony M, et al. Predictive score for the development of hepatocellular carcinoma and additional value of liver large cell dysplasia in Western patients with cirrhosis. Hepatology 1996;23:1112–1118.
[34] Nishiguchi S, Kuroki T, Nakatani S, Morimoto H, Takeda T, Nakajima S, et al. Randomised trial of effects of interferon-alpha on incidence of hepatocellular carcinoma in chronic active hepatitis C with cirrhosis. Lancet 1995;346:1051–1055.
[35] Shiratori Y, Ito Y, Yokosuka O, Imazeki F, Nakata R, Tanaka N, et al. Antiviral therapy for cirrhotic hepatitis C: association with reduced hepatocellular carcinoma development and improved survival. Ann Intern Med 2005;142:105–114.
[36] Hezode C, Forestier N, Dusheiko G, Ferenci P, Pol S, Goeser T, et al. Telaprevir and peginterferon with or without ribavirin for chronic HCV infection. N Engl J Med 2009;360:1839–1850.
[37] McHutchison JG, Everson GT, Gordon SC, Jacobson IM, Sulkowski M, Kauffman R, et al. Telaprevir with peginterferon and ribavirin for chronic HCV genotype 1 infection. N Engl J Med 2009;360:1827–1838.

Please cite this article in press as: Kurosaki M et al. Data mining model using simple and readily available factors could identify patients at high risk for hepatocellular carcinoma in chronic hepatitis C. J Hepatol (2011), doi:10.1016/j.jhep.2011.09.011

World Journal of Gastroenterology

Online Submissions: http://www.wjgnet.com/esps/
wjg@wjgnet.com
doi:10.3748/wjg.v19.i2.249

World J Gastroenterol 2013 January 14; 19(2): 249-257
ISSN 1007-9327 (print) ISSN 2219-2840 (online)

BRIEF ARTICLE

Hyperglycemia is a significant prognostic factor of hepatocellular carcinoma after curative therapy

Takanori Hosokawa, Masayuki Kurosaki, Kaoru Tsuchiya, Shuya Matsuda, Masaru Muraoka, Yuichiro Suzuki, Nobuharu Tamaki, Yutaka Yasui, Toru Nakata, Takashi Nishimura, Shoko Suzuki, Ken Ueda, Hiroyuki Nakanishi, Jun Itakura, Yuka Takahashi, Namiki Izumi

Takanori Hosokawa, Masayuki Kurosaki, Kaoru Tsuchiya, Shuya Matsuda, Masaru Muraoka, Yuichiro Suzuki, Nobuharu Tamaki, Yutaka Yasui, Toru Nakata, Takashi Nishimura, Shoko Suzuki, Ken Ueda, Hiroyuki Nakanishi, Jun Itakura, Yuka Takahashi, Namiki Izumi, Division of Gastroenterology and Hepatology, Musashino Red Cross Hospital, Tokyo 180-8610, Japan

Author contributions: Hosokawa T and Kurosaki M contributed equally to this work; Kurosaki M and Izumi N made substantial contributions to the conception and design of the study; Tsuchiya K, Matsuda S, Muraoka M, Suzuki Y, Tamaki N, Yasui Y, Nakata T, Nishimura T, Suzuki S, Ueda K, Nakanishi H, Itakura J, Takahashi Y and Izumi N collected the clinical data; Hosokawa T and Kurosaki M contributed to the analysis and interpretation of the data; Hosokawa T wrote the draft of the manuscript; Kurosaki M and Izumi N made critical revisions of the manuscript; and Izumi N obtained a research fund.

Supported by A Grant-in-Aid from the Ministry of Health, Labor and Welfare, Japan

Correspondence to: Namiki Izumi, MD, Division of Gastroenterology and Hepatology, Musashino Red Cross Hospital, 1-26-1 Kyonan-cho, Musashino-shi, Tokyo 180-8610, Japan. nizumi@musashino.jrc.or.jp
Telephone: +81-422-323111 Fax: +81-422-329551

Received: June 17, 2012 Revised: September 6, 2012
Accepted: October 16, 2012
Published online: January 14, 2013

Abstract

AIM: To evaluate whether metabolic factors are related to distant recurrence of hepatocellular carcinoma (HCC) and survival after curative treatment.

METHODS: This retrospective study included 344 patients whose HCC was treated curatively by radiofrequency ablation (RFA) therapy. The mean age was 67.6 years and the mean observation period was 4.04 years. The etiological background of liver disease was hepatitis B virus infection in 30, hepatitis C virus infection in 278, excessive alcohol drinking in 9, and other in 27 patients. The Child-Pugh classification grade was A (n = 307) or B (n = 37). The number of HCC nodules was one in 260, two in 61, and three in 23 patients. For surveillance of HCC recurrence after curative therapy with RFA, patients were radiologically evaluated every 3 mo. Factors associated with distant recurrence of HCC or survival were studied.

RESULTS: Inadequate maintenance of blood glucose in diabetic patients was associated with higher incidence of distant recurrence. The 1-, 2-, and 3-year recurrence rates were significantly higher in diabetic patients with inadequate maintenance of blood glucose compared with the others: 50.6% *vs* 26.8%, 83.5% *vs* 54.4%, and 93.8% *vs* 73.0%, respectively (P = 0.0001). Inadequate maintenance of blood glucose was an independent predictor of distant recurrence [adjusted relative risk 1.97 (95%CI, 1.33-2.91), (P = 0.0007)] after adjustment for other risk factors, such as number of HCC nodules [2.03 (95%CI, 1.51-2.73), P < 0.0001] and initial level of serum alpha fetoprotein (AFP) [1.43 (95%CI, 1.04-1.97), P = 0.028]. Obesity was not an independent predictor of recurrence. The incidence of distant recurrence did not differ between diabetic patients with adequate maintenance of blood glucose and non-diabetic patients. Among 232 patients who had HCC recurrence, 138 had a second recurrence. The 1-, 2-, and 3-year rates of second recurrence were significantly higher in diabetic patients with inadequate maintenance of blood glucose than in the others: 9.0% *vs* 5.9%, 53.1% *vs* 24.3%, and 69.6% *vs* 42.3%, respectively (P = 0.0021). Inadequate maintenance of blood glucose in diabetic patients [1.99 (95%CI, 1.23-3.22), P = 0.0049] and presence of multiple HCC nodules [1.53 (95%CI, 1.06-2.22), P = 0.024] were again significantly associated with second HCC recurrence. Inadequate maintenance of blood glucose in diabetic

patients was also a significant predictor of poor survival [2.77 (95%CI, 1.38-5.57), P = 0.0046] independent of excessive alcohol drinking [6.34 (95%CI, 1.35-29.7), P = 0.019], initial level of serum AFP [3.40 (95%CI, 1.88-6.18), P < 0.0001] and Child-Pugh classification grade B [2.24 (95%CI, 1.12-4.46), P = 0.022]. Comparing diabetic patients with inadequate maintenance of blood glucose *vs* the others, the 1-, 2-, and 3-year survival rates were significantly lower in diabetic patients with inadequate maintenance of blood glucose: 92% *vs* 99%, 85% *vs* 96%, and 70% *vs* 92%, respectively (P = 0.0003).

CONCLUSION: Inadequate maintenance of blood glucose in diabetic patients is a significant risk factor for recurrence of HCC and for poor survival after curative RFA therapy.

Key words: Hyperglycemia; Hepatocellular carcinoma; Recurrence; Radio frequency ablation; Survival

Hosokawa T, Kurosaki M, Tsuchiya K, Matsuda S, Muraoka M, Suzuki Y, Tamaki N, Yasui Y, Nakata T, Nishimura T, Suzuki S, Ueda K, Nakanishi H, Itakura J, Takahashi Y, Izumi N. Hyperglycemia is a significant prognostic factor of hepatocellular carcinoma after curative therapy. *World J Gastroenterol* 2013; 19(2): 249-257 Available from: URL: http://www.wjgnet.com/1007-9327/full/v19/i2/249.htm DOI: http://dx.doi.org/10.3748/wjg.v19.i2.249

INTRODUCTION

Hepatocellular carcinoma (HCC) is one of the most common cancers worldwide[1] and its incidence has been increasing in many countries[2]. Surgical resection, liver transplantation, and local ablation therapy, such as radiofrequency ablation (RFA) therapy, have been considered as efficient curative therapies for HCC. RFA therapy is now widely performed in patients with small HCC[3] and a randomized controlled study demonstrated that the survival rates were similar in patients with small HCC receiving RFA or surgical resection[4]. A characteristic of HCC is its high rate of recurrence after curative resection or local ablation therapy, reaching approximately 80% within 5 years[5-7]. Identification of factors related to recurrence of HCC and therapeutic intervention targeting these factors may lead to prevention of frequent recurrence of HCC and improved survival.

Tumor factors, such as the number of HCC nodules and their size, are associated with the recurrence of HCC and survival prognosis[8-10]. Another factor that is associated with the recurrence of HCC and survival is the hepatic reserve function at the time of HCC therapy[8,10,11]. Hepatitis C virus (HCV) and hepatitis B virus (HBV) infection are the major causes responsible for 80% of HCC cases[2] and antiviral therapy targeting HCV[12,13] or HBV[14] has been shown to decrease HCC recurrence, and improve hepatic reserve function and survival. Non-alcoholic steatohepatitis (NASH) has also received attention as a cause of HCC[15]. Metabolic factors, such as obesity and diabetes, are closely linked to the etiology of NASH. These metabolic factors have also been identified as risk factors for several other types of cancer. Obesity is associated with increased mortality rates of several cancers[16,17] and diabetes is also reported as a risk factor for liver, pancreatic, renal, and colon cancers[18,19]. If these metabolic factors are related to the recurrence of HCC, therapeutic intervention targeting these factors may lead to prevention of frequent recurrence of HCC and improved survival. The impact of diabetes on the recurrence of HCC after treatment has been discussed, but with conflicting results[20-23].

In this study, factors contributing to the recurrence and prognosis of HCC after curative treatment were analyzed. We found that inadequate maintenance of blood glucose was related to the high rate of HCC recurrence and poor survival.

MATERIALS AND METHODS

Patients whose HCC was treated by RFA at the Musashino Red Cross Hospital were studied retrospectively for factors associated with recurrence of HCC and survival. The inclusion criteria were as follows: (1) HCC treated curatively with RFA at the Musashino Red Cross Hospital between 1999 and 2007; (2) maximum diameter of HCC nodule $\leqslant$ 3 cm; (3) number of HCC nodules $\leqslant$ 3; (4) no previous history of treatment for HCC; and (5) follow-up observation for at least 6 mo after RFA therapy. 344 patients met these criteria, including 140 women and 204 men, with a mean age of 67.6 years and mean observation time of 4.04 years. The clinical characteristics of the patients are summarized in Table 1. The etiological background of liver disease was HBV infection in 30, HCV infection in 278, excessive alcohol drinking (intake of ethanol $\geqslant$ 60 g/d for $\geqslant$ 5 years continuously) in 9, and non-B non-C non-alcoholic etiology in 27 patients. The Child-Pugh classification grade was either A (n = 307) or B (n = 37). The number of HCC nodules was one in 260, two in 61, and three in 23 patients. Thus, 260 patients had a single lesion, and 84 had multiple lesions. The maximum diameter of HCC nodules was 19.9 ± 0.3 mm.

Obesity was defined as a body mass index > 25 kg/m^2 according to the definition of the Japan Society for the Study of Obesity[24]. Blood glucose was measured monthly for 6 mo after HCC treatment and the average value was determined. Inadequate maintenance of blood glucose was defined as an average value of blood glucose $\geqslant$ 200 mg/dL. The level of hemoglobin A1c (HbA1c) was not used in the present study because the lifespan of erythrocytes is shortened due to hypersplenism in patients with chronic hepatitis or cirrhosis, leading to lower HbA1c levels relative to the blood glucose level[25]. Diagnosis of type 2 diabetes was made according to the

Table 1 Characteristics of patients undergoing curative radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma *n* (%)

Variable	Value
Sex (male/female)	204/140
Age(yr)	67.6 ± 8.4
Etiology of liver disease: HBV/HCV/NBNC	30/278/36
AST (IU/L)	84.0 ± 34.5
ALT (IU/L)	73.2 ± 36.5
GGT (IU/L)	82.9 ± 96.8
T-Chol (mg/dL)	157.8 ± 32.0
TG (mg/dL)	112.3 ± 55.7
Mean blood sugar (mg/dL)	139.3 ± 44.0
Diabetes mellitus	159 (48)
BMI > 25 kg/m^2	86 (25)
Maximum diameter of HCC nodule (mm)	19.9 ± 0.3
Number of HCC nodules: single/2 or 3	260/84
AFP (ng/mL)	214 ± 1025
Alcohol drinking > 60 g/d	9 (2.6)
Child-Pugh grade: A/B	307/37

HBV: Hepatitis B virus; HCV: Hepatitis C virus; NBNV: Neither HBV nor HCV; AST: Aspartate aminotransferase; ALT: Alanine aminotransferase; GGT: γ-glutamyltransferase; T-Chol: Total cholesterol; TG: Triglyceride; BMI: Body mass index; AFP: α-fetoprotein; HCC: Hepatocellular carcinoma.

American Diabetes Association criteria of a fasting blood glucose level ≥ 126 mg/dL (≥ 7.0 mmol/L) and/or HbA1c level ≥ 6.5[26]. After initial treatment of HCC by RFA, the ablated area was confirmed by contrast-enhanced computed tomography (CT) within one week. If the ablated area was not sufficient, then RFA therapy was repeated until the HCC nodule was completely ablated.

HCC surveillance and diagnosis of recurrence

Diagnosis of HCC was based on abdominal ultrasonography, contrast-enhanced CT, magnetic resonance imaging (MRI), or angiography. Classical HCC was diagnosed for tumors showing vascular enhancement with washout on at least two types of diagnostic imaging. Tumor biopsy was used to diagnose tumors with non-classical imaging findings.

For surveillance of HCC recurrence after curative therapy with RFA, patients were evaluated by abdominal ultrasonography, contrast-enhanced CT, or contrast-enhanced MRI every three months. Recurrence of HCC was diagnosed based on a new lesion detected by ultrasonography showing vascular enhancement with washout on CT or MRI. If the tumor was not hypervascular, a tumor biopsy was performed to confirm the diagnosis.

Statistical analysis

For analysis of survival and recurrence, the time of initial RFA treatment was defined as day zero. Survival rate and recurrence rate were analyzed by the Kaplan-Meier method and log rank test. Multivariate analysis was performed using a Cox proportional hazard model. Data were analyzed using StatView Version 5.0 (SAS Institute Inc, Cary, North Carolina, United States) and IBM-SPSS statistics version 18 (IBM SPSS Inc, Chicago, IL, United States). Statistical significance was set at $P < 0.05$.

RESULTS

Factors associated with HCC recurrence

Of the 344 patients whose HCC was curatively treated by RFA, 232 had HCC recurrence. The 1-, 2-, and 3-year recurrence rates were 29.3%, 57.5%, and 75.2%, respectively. On univariate analysis, inadequate maintenance of blood glucose, higher initial level of serum AFP and multiple HCC nodules were significantly associated with HCC recurrence. Obesity ($P = 0.06$) and diabetes ($P = 0.65$) were not significantly associated with HCC recurrence.

Thirty-seven patients had diabetes with inadequate maintenance of blood glucose, 122 patients had diabetes with adequate maintenance of blood glucose, and 185 patients did not have diabetes. The HCC recurrence rate was significantly higher in diabetic patients with inadequate maintenance of blood glucose than in the others ($P = 0.0001$) (Figure 1A).

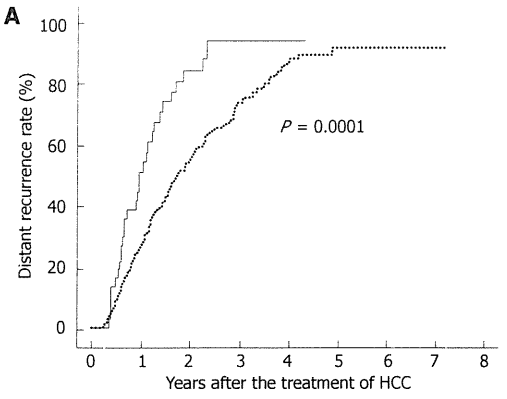
Comparing patients with diabetes ($n = 159$) and patients who did not have diabetes ($n = 185$), there was no significant difference in the recurrence rate ($P = 0.65$). Upon comparison of the three groups, i.e., the diabetes with inadequate maintenance of blood glucose group, the diabetes with adequate maintenance of blood glucose group, and the non-diabetes group, the recurrence rate was significantly higher in the diabetes with inadequate maintenance of blood glucose group than in the other two groups ($P = 0.0001$) (Figure 1B). On the other hand, there was no significant difference in the HCC recurrence rate between the diabetes patients with adequate maintenance of blood glucose group and the non-diabetes group.

In terms of the number of HCC nodules, namely, single ($n = 260$) *vs* multiple ($n = 84$), the recurrence rate was significantly higher in patients with multiple HCC nodules ($P = 0.0001$). Within each subgroup of patients with single and multiple HCC nodules, diabetes with inadequate maintenance of blood glucose was significantly associated with recurrence of HCC (single, $P = 0.006$; multiple, $P = 0.025$) (Figure 2A, B). In terms of the initial level of serum AFP ≥100 ng/mL ($n = 70$) *vs* < 100 ng/mL ($n = 274$), the recurrence rate was significantly higher in patients with AFP ≥ 100 g/mL ($P = 0.018$). Within each subgroup of patients with AFP ≥ 100 ng/mL and < 100 ng/mL, diabetes with inadequate maintenance of blood glucose was associated with a higher rate of recurrence (AFP ≥ 100 ng/mL, $P = 0.005$; AFP < 100 ng/mL, $P = 0.017$) (Figure 2C, D).

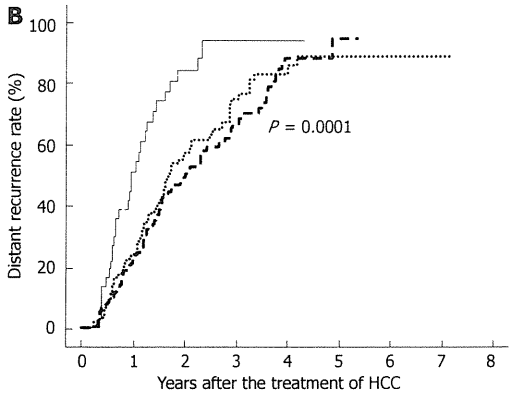
Independent risk factors for distant recurrence of HCC on multivariate analysis were inadequate maintenance of blood glucose in diabetic patients [adjusted relative risk, 1.97 (95%CI, 1.33-2.91), $P = 0.0007$], multiple HCC nodules [2.03 (1.51-2.73), $P < 0.0001$], and AFP ≥ 100 ng/mL [1.43 (1.04-1.97), $P = 0.028$] (Table 2).

Factors associated with second recurrence

Among the 232 patients who had HCC recurrence, 138 had a second recurrence. Regarding second recurrence, inadequate maintenance of blood glucose in diabetic pa-



Recurrence rate at	1-year	2-year	3-year
Inadequate maintenance of blood glucose	50.6%	83.5%	93.8%
Others	26.8%	54.4%	73.0%



Recurrence rate at	1-year	2-year	3-year
Diabetes with inadequate maintenance of blood glucose	50.6%	83.5%	93.8%
Diabetes with adequate maintenance of blood glucose	21.9%	48.7%	66.5%
Non-diabetes	23.6%	55.5%	74.4%

Figure 1 Kaplan-Meier curves showing a higher rate of hepatocellular carcinoma recurrence in diabetic patients with hyperglycemia. A: The cumulative incidence of the recurrence of hepatocellular carcinoma (HCC) was significantly higher in diabetic patients with inadequate maintenance of blood glucose (blood glucose ≥ 200 mg/dL solid line) than in the others (dotted line) (P = 0.0001); B: The HCC recurrence rate was significantly higher in diabetic patients with inadequate maintenance of blood glucose (solid line) than in diabetic patients with adequate maintenance of blood glucose (blood glucose < 200 mg/dL, broken line) or non-diabetic patients (dotted line) (P = 0.0001). There was no significant difference in HCC recurrence rate between diabetic patients with adequate maintenance of blood glucose and non-diabetic patients.

Table 2 Multivariate analysis of factors associated with recurrence of hepatocellular carcinoma

Factors	Odds ratio (95%CI)	*P*-value
First recurrence		
Inadequate maintenance of blood glucose	1.97 (1.33-2.91)	0.0007
Multiple HCC nodules	2.03 (1.51-2.73)	< 0.0001
AFP ≥ 100 ng/mL	1.43 (1.04-1.97)	0.028
Second recurrence		
Inadequate maintenance of blood glucose (mg/dL)	1.99 (1.23-3.22)	0.0049
Multiple HCC nodules	1.53 (1.06-2.22)	0.024

Inadequate maintenance of blood glucose was defined as an average of casual blood glucose of ≥ 200 mg/dL. HCC: Hepatocellular carcinoma; AFP: α-fetoprotein.

tients and multiple HCC nodules were again significantly associated with HCC recurrence. Obesity (P = 0.18), diabetes (P = 0.31) and initial level of serum AFP (P = 0.08) were not associated with second recurrence. In terms of the number of HCC nodules, namely, single *vs* multiple, the 1-, 2-, and 3-year recurrence rates were significantly higher in patients with multiple lesions (6.4% *vs* 6.1%, 39.3% *vs* 23.1%, and 52.5% *vs* 42.3%, respectively, P = 0.013). Upon comparing diabetic patients with inadequate maintenance of blood glucose *vs* the others, the rate of second recurrence was significantly higher in diabetic patients with inadequate maintenance of blood glucose (P = 0.0021) (Figure 3A). Upon comparing patients with diabetes *vs* patients who did not have diabetes, the rates of second recurrence were not significantly different (P = 0.31). Upon comparison of the three groups, i.e., the diabetes with inadequate maintenance of blood glucose group, the diabetes with adequate maintenance of blood glucose group, and the non-diabetes group, the second recurrence rate was again significantly higher in the diabetes with inadequate maintenance of blood glucose group than in the other two groups (P = 0.0035) (Figure 3B). On the other hand, there was no significant difference in the second recurrence rate between the diabetes with adequate maintenance of blood glucose group and the non-diabetes group.

Independent risk factors for second recurrence of HCC on multivariate analysis were inadequate maintenance of blood glucose [1.99 (95%CI, 1.23-3.22), P = 0.0049] and multiple HCC nodules [1.53 (95%CI, 1.06-2.22), P = 0.024] (Table 2).

Factors associated with survival

There were 52 HCC-related or hepatic failure deaths. On univariate analysis, inadequate maintenance of blood glucose, excessive alcohol drinking, higher initial level of serum AFP and Child-Pugh classification grade B were significantly associated with survival. Obesity (P = 0.81) and diabetes (P = 0.11) were not significantly associated with survival.

Upon comparing diabetic patients with inadequate maintenance of blood glucose *vs* the others, the survival rate was significantly lower in patients with inadequate maintenance of blood glucose (P = 0.0003) (Figure 4A). Upon comparing diabetic patients *vs* non-diabetic patients, the survival rates were not significantly different